



Title	語彙教育 : フランス小学校の語彙習得方法
Author(s)	川北, 恭子
Citation	外国語教育のフロンティア. 2019, 2, p. 271-285
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/71898
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

語彙教育

—フランス小学校¹⁾の語彙習得方法—

Teaching French Vocabulary : Methods of improving French vocabulary in the primary school of France

川北 恭子

要約

外国語学部フランス語専攻での2年間の実習授業では、詳細な文法学習は行っているが体系的な語彙学習は行っておらず、専攻語到達度目標達成には語彙不足が懸念される。専攻語の授業であることに鑑みて、文法学習レベルを維持しつつ効果的な語彙習得方法を考えなければならない。他方、フランスの国語教育では、「聞く・話す・読む・書く」といった総合的な理解力や表現力は、文法規則や正書法の習得及び豊かな語彙にかかっているという判断の下に、体系化された語彙教育が行われている。国語教育で習得される語彙は、外国語教育で習得すべき語彙よりも高度で広範囲でありながら、外国語教育で習得すべき基本語彙もおろそかにせず学習させている。そこで、フランスにおける語彙教育がどのように行われているかを知ることは、外国語としてのフランス語教育における語彙を豊富にする学習方法に資すると考える。フランス小学校国語科の語彙習得方法を「語形成、多義性、類義語と反意語」の3項目を中心に国語教科書から紹介し、我々のフランス語教育への応用可能性を検討する。

キーワード：国語教育、外国語教育、語彙習得

1. はじめに

本学フランス語専攻学生のフランス語を学ぶ動機は、フランス語を習得して3年次より言語学・文学・歴史・経済など専門分野の学問をするため、あるいは異文化としてのフランスを知るためなど多様である。しかし、何れの動機・目的にしる、第一段階としてはフランス語を用いて口頭あるいは書面で意思疎通を目指していると言って良いであろう。我々は、1、2年次実習でそのための基礎的語学力を養うための教育を行わなければならない。

本専攻語では、2年次終了時の専攻語到達度目標を概ねCEFR²⁾のA2～B1相当レベルとしている。CEFR B1の全体的尺度には「仕事、学校、娯楽など身近な話題に関して、はっきりとした標準的な話し方であれば要点は理解できる」³⁾という記述があり、そのCEFRに

準拠したレベル別具体的技能基準をまとめた教員向けガイドブック⁴⁾では、B1レベルの語彙として概ね「日常生活（余暇、外出、買い物、公共交通機関、旅行、家族、住居など）、人物（身体的描写、性格、衣服、感情、健康など）、場所（都市、田舎、自然地理など）、職業（企業、仕事、学校、教育など）、出来事（出会い、事故、自然現象など）、メディア（テレビ番組、新聞、インターネット、現代的話題など）、文化（映画、文学、絵画、興行など）」が挙げられている。また、文法事項に関しては、直説法単純過去、直説法前未来、接続法過去、複合関係代名詞 *lequel* 類などはB2レベル、接続法半過去や大過去はC1レベルから記載されている。

他方、我々は現在1年次専攻語学生に対して、文法、会話、購読、LLの4種の授業科目を提供しており、文法科目のみ週2回授業を行い、CEFR C1レベルとされる文法事項まではほぼ全てを網羅して教育している⁵⁾。2年次においては、上記4種の科目に作文科目が加わる。2年間の実習授業（計450時間⁶⁾）を通じて、各授業は科目名に応じた授業を行っており、授業で出現する語彙を個々に扱い、体系的な語彙学習は行っていない。授業時間とCEFR各レベルの学習目安時間（B1レベル：350-400時間⁷⁾）とを比較すると、たとえ、CEFRの認定基準がヨーロッパの国々を対象としているものであり、日本語話者に対して同じ基準で図ることは難しいという事情を考慮に入れたとしても、2年次終了時にB1レベルに到達することは理論的には可能である。しかしながら、個人差もあるが実際には2年次終了時にB1レベルに達するには相当の努力が必要となる。実際、学生からは、辞書が無い場合の読み書きやネイティブとのやり取りを行う際、語彙不足により進行が滞ることが多いと聞いている。また、筆者担当の2年次中級LLで行うディクテでは知らない単語は聞き取れず綴ることができない。B1レベル到達に対して学生が最も困難を覚えるのはやはり語彙の面であろう。また、その一因は、1年次文法学習レベルと語彙学習レベルの不均衡であると推察される。第2外国語ではなく専攻語の授業であるということに鑑みると、文法学習レベルを現在のまま維持しつつ効果的に語彙を習得するための方策を考える必要がある。

以上を踏まえて、本稿では、本専攻語での効率的な語彙学習を模索・検討するための手掛かりとして、フランス小学校国語科の語彙教育に焦点を当て、フランスの国語で行われている語彙学習方法を紹介したい。以下第2章では、フランスの教育全体の中での国語教育の位置づけとその重要性を捉え、語彙教育内容を知り参考にする意義を述べる。第3章では、実際の国語教科書から語彙習得方法を紹介し、我々のフランス語教育への応用可能性を検討する。

2. フランス国語教育⁸⁾

フランスでは、2013年7月の法律⁹⁾に沿って教育改革が行われ、新しい共通基礎知識技

能教養 (Socle commun de connaissances, de compétences et de culture、以下「共通基礎」と略記) と新しい学習期及びプログラム (学習指導要領に相当するもの) に則った授業が2016年度から導入された¹⁰⁾。

2.1 共通基礎¹¹⁾

「共通基礎」とは、フランスの児童が将来、社会生活を成功させるために義務教育段階¹²⁾で習得すべき知識技能教養であり、そこでは5つの領域¹³⁾が定められ、そのうちの第一の領域が「考え伝達するための言葉 (les langages pour penser et communiquer)」である。ここでの「言葉 (langages)」は、フランス語、外国語と地域言語、数学・科学・情報処理の言葉、芸術とスポーツ活動の言葉、の4つの言葉を対象としており、フランス語の目標は「口頭でも書面でもフランス語を使いながら理解し自己表現する」となっている。この目標の具体的内容として、明瞭に順序立てて言語レベルや状況を考えて話すこと、読書においては明示と非明示の情報を適切に批判的に検討して理解すること、作文においては明確に構成立てて叙述・説明・論証すること、文法や正書法の主な規則を正しく用いること、適切で確かな語彙を用いて書いたり話すること、ギリシャ語やラテン語起源の語源に関心を高めること等が記載されている。

「共通基礎」と各教科との関係は、「共通基礎」習得のために各教科が貢献するという考え方であり、各教科の学習内容は学習期毎にプログラムに記載されている。なお、「学習期」とは学習内容に焦点を当てた区切りであり、小学校第1学年から第3学年は第2学習期、第4学年と第5学年は第3学習期に属する。

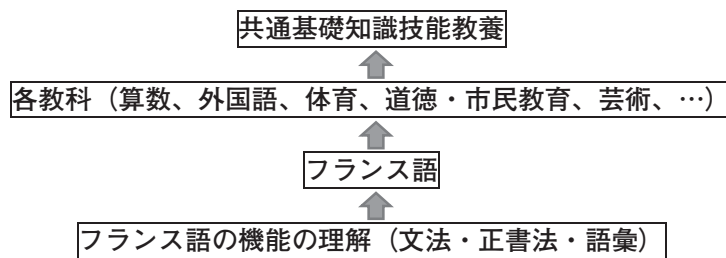
2.2 プログラム (学習指導要領)¹⁴⁾

第2および第3学習期のプログラムでは、「読み・書き・計算・他者の尊重」という4つの基本的事項の獲得が優先され、フランス語習得が主要な目的とされている。教科別授業時間配分表¹⁵⁾を参照しても、フランス語は、小学校年間総授業時間864時間中、第2学習期では年360時間即ち約42%が、第3学習期では年288時間即ち約33%が割り当てられている。このことから、フランス語 (国語) 教育の重視が確認される。

第2学習期のプログラムには「フランス語教育は、児童の社会での生活力やコミュニケーション力を強化し、社会との関係を築かせ、自己形成に資する。全ての教育への架け橋となり各教科で用いる言葉の理解を助ける。」¹⁶⁾と述べられている。そして、教科フランス語の学習すべき能力として「口頭での理解と自己表現」「読み (読解)」「書き (作文)」「フランス語の機能の理解 (文法・正書法・語彙)」の4項目が掲げられているが、その中でフランス語の機能の習得はフランス語教育の本質的な1側面であり、書く時や話す時の自己表現能力だけでなく、全ての教科の学習到達や社会化をも左右するものであると考えられて

いる。その認識の下で、機能の学習は特別に厳密に明確に行わなければならないとされ、テキストや文学を読む際の付随的なものとして行うだけでなく、国語の授業の中で最低週3時間を割り当てる必要があるとされている¹⁷⁾。このような考え方は、第3学習期にも引き継がれ、教科フランス語においては、読み書き口頭の学習活動は規則的に何度も繰り返して行われるが、こういった諸活動は、文法・正書法・語彙の学習のために特別に設けられた学習活動によって完成されると記されている。

以上より、機能(文法・正書法・語彙)の学習は、「聞く・話す・読む・書く」の諸学習とは切り離せず関係づけられているのは当然ではあるものの、それらの諸学習の前提・基礎として1つの重要な位置を占めていると解される。



語彙に関しては、第2学習期では、辞書の使用ができること、類義語や反意語、単語族(famille de mots)や接頭辞及び接尾辞を見つけること、話し言葉・日常の言葉・凝った(書き)言葉という言語レベルを知ること、学校や各教科の語彙、家庭・遊び・日常生活・感情・感覚など児童の身近な世界の語彙といった日常的によく用いる語彙の綴り字を覚えること、主な不変化語を覚えること、単語族による語のグループ分けができること等が求められている。第3学習期では、文学や芸術関係の読書や辞書等を通じてさらに語彙を豊かにすること、習得した語彙を書く時や話す時に適切に再利用できること、派生や合成といった語形成を理解すること、主要な接頭辞の意味を知ること、ラテン語やギリシャ語の語根に気づくこと、単語族や語彙領域によるグループ分けをすること、類義性・反義性・同音異義・多義性の概念を知ることなどが求められている。また、第2、第3学習期ともに、ディクテが学習活動の1つとして挙げられている。ディクテは文法と綴り字と意味の総合的学習効果が図れるため、フランスの学校教育で伝統的に行われているということは周知のとおりであるが、通達にも「ディクテは毎日行うべきである」という記載がある¹⁸⁾。

2.3 教科書

フランスでは、教科書使用は義務付けられておらず、国による教科書検定も行われていない¹⁹⁾。授業の進め方は教員の裁量に任されており、プログラムの範囲内ならば教育現場の実情に応じて学習内容や進度を調整することが可能である。一方、Savoir-Livre²⁰⁾による

教科書使用後調査では、教科書使用に肯定的結果が得られており、2001年から2003年の統計では毎年5000冊以上の教科書が発行されているという。また、Leroy (2012: 7) の報告によれば、教科書は2010年出版総売り上げの10.4%を占めているという。義務化されていないとはいえ、プログラムに沿って作成・具現化した教科書を観察すれば、具体的に何が重要視されて指導されているかを知る手掛かりとなり、教科書は学習内容や学習方法を把握する上で有効な手段の1つとなると思われる。

「聞く・話す・読む・書く」の総合的国語教科書および教師用手引書を参照すると²¹⁾、あるテーマ設定をし、そのテーマに沿って議論や読解を行い、出現あるいは関連した語彙や文法を学び、学んだ事項を用いて作文を行う等の活動が行われるのが一般的である。教科書によりテーマは若干異なるが、概ね、学校、家族、旅行、遊び、動物、食、感情、感覚、笑い、スポーツ、空想上の生き物、コミュニケーション手段、時間・時代、自然・環境、交通機関、多様性、音楽、芸術等であり、読書内容が道徳や市民教育に通じるものとなっていることもある。テーマに沿った読書を通じて関連する語彙を増やしていく以外に、文法・正書法・語彙に特化した習得用ページも設けられている。その語彙習得用ページでは、類義語・反意語・多義性(本来の意味と比喩的意味)・単語族・接頭辞・接尾辞・総称語と特定語(上位概念語と下位概念語)・語彙領域・語源といった項目を立てて学習が行われる。項目ごとの学習は、学年を経てもほぼ同じ説明を繰り返し連続して行われ、復習しながら徐々に難易度の高い語彙を追加していく²²⁾。

2.4 フランス国語教育と外国語としてのフランス語教育の接点

国語教育は一般的に自国で生まれ育っている児童に対する教育であり、外国語としてのフランス語教育(以後、FLEと略記)とは異なるものであると考えられており、フランス初等教育における国語教育と日本におけるFLEを関連付けて教育方法を検討することはされていない²³⁾。

しかし、2.3で見たように、国語教育で取り上げられるテーマは、1.で述べたCEFRのB1レベルまでで求められる語彙領域と重なる部分が多い。また、国語教育であろうともFLEで習得すべき基本語彙を疎かにせず学習させていることにも気づく。そもそも、2.1及び2.2で見たように、国語教育では、聞く・話す・読む・書くという理解や表現は正書法や文法規則の習得と豊かな語彙にかかっていると認識され、体系化された教育が求められ、教科書でもそのような構成を取っている。従って、フランスにおける語彙教育がいかなるものなのかを知ることは、FLEの語彙教育を考える上で意義があり、語彙を豊富にする学習方法の改善に資すると考える。

もっとも、国語教育で求められる語彙はFLEで習得すべき語彙よりもはるかに詳細で高度に踏み込んだものとなっていることから、我々はFLEで扱うべき語彙を十分に検討し取

捨選択しなければならないのは言うまでもない。

3. 語彙教育

前章で見たように、フランスの小学校では国語教育の中で語彙習得が1つの課題となっており、Éduscol²⁴⁾のHPでは、教師用に1500語の基本語リストが掲載されている²⁵⁾。いかにして未知の語彙の意味を類推するか、いかにして効率よく語彙を学ぶかが問題となる。そのため、語彙力を増すための方策として、Picoche (2011)は、文を構成する動詞を中心に学ぶこと、構文と共に学ぶこと、具体的意味から抽象的意味へと移行する語の多義性を知ること、事物のラベルとして語を学ぶのではなく事物を表現できる道具として語を学ぶこと、という4つの原則を挙げている。動詞を中心に学ぶことで、動詞の名詞化や形容詞化という派生、語基、接頭辞、接尾辞の問題につながり、これらの形態的な知識の重要性を指摘している²⁶⁾。また、Crinon (2011)は、未知の語の類推には、文脈に頼ることや語形態を知ることだけでなく、語彙は意味的類似や対立との関係で決まる1つの体系であるから、類義語や反意語との関係を把握することの大切さを指摘している。

このような論稿からも、語形成、多義性、類義語と反意語の習得は、語彙を豊富にするために特に重要視されていると理解される。実際に教科書を参照すると、この3項目は小学校5年間を通じて学習される課題でもある。以下では、この3項目について児童がどのような課題に取り組んでいるのかを見ていきたい。

3.1 教科書に見る語彙習得方法

3.1.1 語形成 (単語族、接頭辞、接尾辞)

プログラムにあるように、語形成に注目し、構造的・意味的側面から同じ語基を持つ単語族と接頭辞および接尾辞を知ることが学習目標の1つとなっている。語基を中心とした単語族をまとめることで、語のネットワークを構築し関連付けをさせている。また、語の語基、接頭辞、接尾辞に気づき、それぞれの意味を知ることにより、読解における未知の語の意味の類推や文法的役割の理解ができるようになると考えられている。語基に接頭辞を付加することで品詞は変わらず新たな意味が生じるが、接尾辞の付加により意味だけでなく品詞も変わることに注意を促し²⁷⁾、主要な接頭辞と接尾辞の持つ意味を覚えさせ、語彙を豊かにさせようとしている。簡単な接頭辞(反復を表すre-、反対・否定を表すin-, im-)や接尾辞(職業名詞を表す-iste等)から始まり、徐々に難易度を増し、ギリシャ語やラテン語起源の主要な接頭辞(poly-, hippo-等)や接尾辞(-drome, -vore等)まで習得するようになっている。

下の問①は、同じ語基からなる単語族を認識させると同時に接頭辞や接尾辞の持つ意味や文法的役割にも気づかせる練習問題となっている。①を解答するためには、文意を理解

するだけでなく、a. と d. は être の属詞なので形容詞、b. は定冠詞 la の後なので名詞、c. は近接未来形なので不定詞を入れるという文法的役割を理解しなければならない。

問①：ゴシック体の語と同じ単語族の語を用いて各文を完成させなさい。

- a. **juste** : Jules n'a rien fait de mal et il a été puni. C'est
- b. **poli** : Lilou ne dit jamais bonjour ni merci. Il faudrait lui apprendre la
- c. **courage** : Martin va participer aux championnats scolaires de natation. Nous allons tous l'
- d. **ennui** : Je n'ai pas regardé tout le film. Il est vraiment (Millefeuille CE1, p.193)

次の問②は、定義を読ませることで語基 **dent** を確認させ、同じ語基を持つ単語族の語をまとめて学習させることで、語を関連付けて習得させようとしている。

問②：各定義に合うよう **dent** の単語族の語を書きなさい。

- a. Appareil composé de fausses dents.
- b. Pâte qui sert à se laver les dents.
- c. Personne qui soigne les dents.
- d. Ensemble des dents. (Millefeuille CE2, p.193)

次の問③は、接頭辞や接尾辞を用いて派生語を作らせ、接頭辞 **in-** や **sur-**、接尾辞 **-erie** や **-able** の持つ意味を学習させている。

問③：定義に合う派生語を見つけなさい。ゴシック体の語基を使いなさい。

- a. Un endroit où l'on achète des **billets** de spectacle.
- b. Que l'on ne peut pas **séparer**.
- c. Un travail de construction fait par un **maçon**.
- d. **Charger** quelque chose d'un poids trop lourd. (Millefeuille CMI, p.199)

次の問④は、基本動詞 **venir** に主要な接頭辞を付加することでそれぞれの意味を持つ動詞が形成されることを学ばせている。同時に、動詞活用の練習にもなっている。

問④：動詞 **venir** に接頭辞 **re-**、**pré-**、**inter-**、**sur-**、**de-**、**con-** を付加し文を完成させなさい。動詞は現在形で活用させなさい。

- a. La réponse proposée ne ... pas pour cet exercice.
- b. Les pompiers ... dès que l'alerte est donnée.
- c. Elle ... toujours de son absence avant 9 heures.
- d. Nous ... du Maroc aujourd'hui.
- e. Ma grand-mère ... sourde ave l'âge.
- f. L'ogre ... brusquement. (Mots en herbe CMI, p.240)

次の問⑤は、基となる動詞に付く接頭辞を選ぶ課題であるが、正答を出すためには文意を考えなければならない。

問⑤：適切な接頭辞を用いて各文を完成させなさい。

- ・ Cette chrysalide va se (trans-/dé-)former en papillon.
- ・ La maîtresse* (ré-/sur-)veille les enfants dans la cour. (*maitresse)
- ・ Vous allez (com-/sur-)prendre rapidement la situation.
- ・ Ce nageur a facilement (dé-/re-)passé ses adversaires. (Mot de Passe CMI, p.175)

次の問⑥は、同じ単語族の名詞を見いだす課題であり、動詞の名詞化による書き換えという書き言葉レベルの表現方法習得と言えよう²⁸⁾。

問⑥：各動詞に対して、同じ単語族の名詞を見つけなさい。

- ・ La foule piétine. → le ... de la foule
- ・ Le policier crie. → le ... du policier
- ・ Le voisin déménage. → le ... du voisin
- ・ Le maître* explique la leçon. → l'... du maître* (*maitre)
- ・ L'ouvrier couvre le toit. → la ... du toit (Mot de Passe, CM2, p.99)

3.1.2 多義性

語の大部分は多義的であり、文脈によってのみ適切な意味が選択できると説明されている²⁹⁾。本来の意味から比喩的意味へと連想してつながるが、比喩的意味は特に成句で用いられていることが多いため、成句を習得させる課題も多く見られる。その際、基本的な身体部位や動物名の入った成句は各学年を通して学習されている。たとえば、次の問①のようなものである。

問①：比喩的意味を持つ各表現をその定義と結びなさい。

1. J'ai mangé trop de gâteaux, j'ai mal au cœur.
2. Ma tante Sonia a la main verte, son jardin est magnifique !
3. Je suis longtemps resté assis, j'ai des fourmis dans les jambes.
4. N'écoute pas ce garçon, c'est une langue de vipère.
 - a. Sentir des picotements.
 - b. Savoir bien s'occuper des plantes.
 - c. Personne qui dit des méchancetés.
 - d. Avoir envie de vomir. (Mots en herbe CEI, p.165)

次の問②は、日常よく使う基本語が様々な意味を持つことを文脈の中で確認させている。単数か複数かの基本的な文法学習にもなっている。

問②：次の語 (bouton(s), feuille(s), lettre(s)) を用いて文を完成させなさい。

- ・ J'ai reçu une ... de ma cousine.
- ・ Jérémy a la varicelle. Il est couvert de

- ・ En hiver, beaucoup d'arbres perdent leurs
- ・ Tu as utilisé toutes les ... de ton cahier.
- ・ J'ai perdu un ... de ma chemise.
- ・ Mon frère colorie la première ... de son prénom. (Mot de Passe CE1, p.89)

次の問③も、問②同様、基本語の多義性とその正確な意味は文脈によることを学習させている。

問③：下線部の語の定義を言いなさい。

- ・ J'ai demandé la carte au serveur.
- ・ Papa repère d'abord l'endroit sur la carte.
- ・ C'est souvent mon frère qui distribue les cartes.
- ・ As-tu bien reçu ma carte ? (Mots en herbe CE2, p.102)

次の問④は、同一の基本語が本来の意味と比喩的意味を持つことを文脈の中で確認させている。

問④：リストの語 (souffle, fondu, frais, sauvage) を用いて2つの文を完成させなさい。そして、その語が本来の意味か比喩的意味かどちらで使われているかを言いなさい。

- Il faut toujours se méfier d'un animal ...
Matthias est un enfant ... ; il ne parle à personne.
- Le vent ... fort ce matin.
Gabriel ne connaît pas la réponse ; Chloé la lui
- Il fait moins froid : la glace a
Le film était si émouvant que Djamilia a ... en larmes.
- L'air est plus ... en altitude que dans la vallée.
Le poisson semble bien ... chez ce marchand. (Millefeuille CM1, p.209)

次の問⑤は、基本動詞 prendre の文脈による多義性に気づかせる課題であるが、類義語を知る学習とも言える。また、動詞を適切に活用させる必要があり文法学習も兼ねている。

問⑤：動詞 prendre を次の動詞 (mesurer, embaucher, confondre, capturer) で置き換えて文を書き直しなさい。

- La police a fini par le **prendre**.
- J'ai **pris** les dimensions du fauteuil : il ne passe pas par la porte.
- Alex **a été pris** à l'usine en septembre dernier.
- Il **prend** ses rêves pour la réalité. (Mots en herbe CM2, p.236)

次の問⑥は、動詞がとる構文によって意味の相違が生じることを学ばせる課題である。動詞は前置詞の有無や前置詞の種類と合わせて習得させることが重要であるということが、再確認される。

問⑥ : passer, passer par, se passer de, passer pour を用いて文を完成させなさい。

- a. Avec tes idées farfelues, tu ... un fou !
- b. Je préfère ... la place de l'Étoile quand je vais chez son oncle.
- c. Emma ... devant la boulangerie tous les matins.
- d. Gaël est incapable de ... sa console de jeux. (Mots en herbe CM2, p.241)

3.1.3 類義語と反意語

語と語の関係を知りニュアンスの差を把握することで、より適切な語を用いて正確な情報をもたらすことができるように類義語を習得させようとしている。また、同一の語が必ずしも同じ類義語や反意語を持つわけではなく、文脈次第でよりの確な類義語や反意語を持つということに注意を促している。この点は上で見た多義性と関わっており、多義性との関係で解答させる課題が多い。反意語は、否定・反意を表す接頭辞 (in-, im-, ir-, il-, mal-, dé-, a-) を付加して形成させる課題も見られる。

次の問①は、頻度の高い形容詞 *grand* が文脈に即してよりの確な類義語を持つことを学習させている。また、置換する際には性数一致をしなければならないので、文法学習にもなっている。

問① : 形容詞 *grand* を下の最も適切な類義語で置き換えて各文を書き写しなさい。

vaste, adulte, long, remarquable

- a. Que voudrais-tu faire quand tu seras grande ?
- b. Les frères Grimm sont de grands écrivains.
- c. Le lièvre a de grandes oreilles.
- d. Derrière la maison, il y a un grand jardin. (Millefeuille CE1, p.197)

次の問②は、意味内容の希薄な動詞 *faire* を、文脈に応じたよりの確な類義語で置換することで語彙を豊かにさせようとしている。

問② : 以下の文を書き写しなさい。そして動詞 *faire* を下記の類義語の1つで置き換えなさい。

い。créent, fabriquent, construisent, accomplissent, provoquent

- ・ Ces hommes font un travail remarquable.
- ・ Ces ouvriers font une maison en brique.
- ・ Les enfants font des cocottes en papier.
- ・ Les cyclones font des dégâts importants.
- ・ Les artistes font des œuvres originales. (Mot de Passe CE2, p.169)

次の問③も、多義性と類義性を同時に学ぶ課題となっている。基本動詞 *mettre* が文脈や構文に応じて様々な意味を持つことから、意味が明確となる類義語を習得させている。同時に、動詞活用の学習も兼ねている。

問③：動詞 *mettre* を次の類義語の1つで置き換えて文を書き直しなさい。

poser, s'installer, enfiler, commencer, ranger.

- a. Il se met à pleuvoir.
- b. Anne se met à sa place habituelle.
- c. Je mets ma montre sur la table.
- d. Mon père a mis sa voiture au garage.
- e. Il a mis son pull à l'envers.

(*Mots en herbe CMI*, p.245)

次の問④は、基本形容詞 (*fin, doux, long, bon*) の多義性を利用した課題である。文脈に即した反意語を答えさせることで、異なる形容詞が文脈次第で同一の反意語を持つことを学習させている。

問④：ゴシック体の形容詞を反意語で置き換えて文を書き変えなさい。反意語は同じ形容詞になるようにしなさい。

- a. Il est tombé une **épaisse** couche de neige.

Je voudrais un paquet de **gros** sel.

Ses plaisanteries sont très **grossières**.

- b. Ce tissu est **rêche**.

La route monte en pente **raide**.

Elle fait cuire la viande à feu **vif**.

- c. Sarah a les cheveux très **courts**.

La porte du garage est assez **rapide** à ouvrir.

L'exposé de Romain a été bien **bref**.

- d. Les enfants ont trouvé ce plat assez **mauvais**.

Le personnage de ce conte est vraiment **méchant**.

Nous avons donné une **fausse** réponse à l'exercice.

(*Millefeuille CE2*, p.201)

次の問⑤は、文意から動詞の反意語を見いだすと同時に、動詞を適切に活用させねばならない。

問⑤各動詞を反意語によって置き換えて文を書き変えなさい。

- a. Je monte les escaliers rapidement.
- b. Paul a allumé le feu.
- c. Joël a réussi son examen.
- d. Le ciel s'assombrit.
- e. J'ignore son prénom.

(*Mots en herbe CMI*, p.246)

次の問⑥は、反意を表す接頭辞を用いて反意語を形成させるという反意語と語形成の課題を兼ね備えている。

問⑥：ゴシック体の語を、接頭辞を用いた反対の意味を持つ派生語で置き換えなさい。

Ex : Il **plie**. → Il **déplie**.

- ・ Cet homme est très **honnête**.
- ・ Ce blouson est **perméable**.
- ・ Nous avons **collé** la carte de géographie.

(Mots en herbe CM2, p.243)

3.1.4 まとめ

語形成の問題は、FLE 初級中級段階では難しいとはいえ、各接辞の持つ意味を知っておくことで未知の語に遭遇した際に類推が可能となるので、簡単な接辞は説明し同じ接辞を用いた語を例示することは有意義であると考えられる。また、国語教科書では、語基を示して同じ単語族の語を集めさせたり、単純に動詞・名詞・形容詞・副詞を相互に派生させる課題や、単独で接辞を利用して他の名詞（例：boucher → boucherie）や動詞（例：jaune → jaunir）を作らせる課題等も多く見られる。しかし、FLE の観点からは、できる限り文意と関係づけ、性数一致や動詞活用等の文法事項の学習とも繋がるような課題にする工夫が必要であろう。

多義性については、比喩の意味で FLE 教科書に出現した際は、基本的意味にも言及し例文を示すことで意味の理解がより容易になると思われる。頻度の高い語ほど多義であり文脈に依存することが多いため、基本語は様々な意味で用いられている例文を提示しておきたい。また、動詞は、共起する前置詞や構文による意味の相違に注意を促す必要もある。

多義と関係する類義語や反意語の学習についても、動詞活用等の文法問題と関連させて FLE 初級段階からも取り入れていくことができよう。

4. おわりに

本稿では、フランス国語教育で基盤の 1 つとなる語彙学習がどのような課題を通して体系的に行われているかを、語形成、多義性、類義語と反意語の 3 項目を中心に紹介した。その結果、語彙習得方法は、我々 FLE でも十分応用可能であり、教材作成に役立てられると確認した。今後は、習得すべき語彙を精査・再検討し、専攻語として相応しい語彙習得用教材作成に取り組むこととする。

なお、2016 年度プログラムには、正書法の教育は 1990 年に発表された新正書法に基づいて行われる旨の記述があり³¹⁾、参照した教科書も新正書法で記載されている³²⁾。現状では、旧正書法と新正書法がいずれも正しいものとして共存しているが、より簡単な新正書法が優位を占めることになるのは容易に予想される。今後我々の FLE では新正書法に則った授業を行う方が望ましいと思われることを付記しておく。

注

- 1) フランスの初等教育は就学前教育の幼稚園 l'école maternelle も含まれるが、義務教育は6歳から始まるため、本稿は6歳から始まる小学校 (5年制) のみを対象としている。
- 2) CEFR (Common European Framework of Reference for Languages ヨーロッパ言語共通参照枠)。
- 3) CEFR 仏語版 *Cadre européen commun de référence pour les langues : apprendre, enseigner, évaluer* (2001 :25)。
- 4) Alliance Française (2008)。CEFR の枠組み通り、聴解力、読解力、口頭での表現力、会話力、書く力、に分けて記載されている語彙をまとめた。
- 5) B2 レベルとなっている重複合過去形については、我々は教えていない。
- 6) 1年次2年次共に年225時間 (= 1コマ90分×週5回×30週) の実習授業を行っている。
- 7) DELF・DALF 日本フランス語試験管理センター http://www.delfdalf.jp/generalites_jp.htm
- 8) フランスの学校教育では、教科「国語」に対して、国語 *langue nationale* とは呼ばずに、フランス語 *le français* 又は *la langue française* と呼んでいるが、本稿では便宜上「国語」と称す。
- 9) LOI n° 2013-595 du 8 juillet 2013 d'orientation et de programmation pour la refondation de l'école de la République
- 10) <http://www.education.gouv.fr/cid95812/au-bo-special-du-26-novembre-2015-programmes-d-enseignement-de-l-ecole-elementaire-et-du-collège.html> (2018年9月1日最終確認)。
- 11) 共通基礎の内容については、「*Socle commun de connaissances, de compétences et de culture*», MENE 1506516D, *Bulletin officiel n° 17 du 23 avril 2015* を参照した。
- 12) フランス義務教育は6歳から16歳である。
- 13) 第2領域は学習のための方法と手段、第3領域は人および市民形成、第4領域は自然体系と技術体系、第5領域は世界の表示と人間活動、である。
- 14) プログラムの内容については、*Bulletin officiel spécial n° 11 du 26 novembre 2015* の修正版である « Programmes d'enseignement : Cycle des apprentissages fondamentaux (cycle 2), cycle de consolidation (cycle 3) : modification », Annexe 1 および Annexe 2, NOR : MENE1820169A, *Bulletin officiel n° 30 du 26 juillet 2018* を参照した。
- 15) « Horaires d'enseignement des écoles maternelles et élémentaires », NOR : MENE1526553A, *Bulletin officiel n° 44 du 26 novembre 2015*.
日本では、最も時間数の多い小学校第1学年で総授業時間数の36%である。学年ごとに減少し、第5および第6学年では17%である。(文部科学省HP参照。)
- 16) « Programmes d'enseignement, Cycle 2 », p.8. *Bulletin officiel n° 30 du 26-7-2018*.
- 17) « Enseignement de la grammaire et du vocabulaire : un enjeu majeur pour la maîtrise de la langue française », NOR : MENE1809041N, *Bulletin officiel spécial n° 3 du 26 avril 2018*.
- 18) *ibid.*
- 19) Auduc (2012:69)
- 20) *Savoir-Livre* とは教科書出版連盟。 <http://www.savoirlivre.com/faq.php> (2015.8.10最終確認)
- 21) 今回参照したものは Bordas 社、Hachette 社、Nathan 社発行の以下の総合教科書とその教師用手引書である。
 1. *Litournelle, manuel 1 et 2* (2014, Bordas) 及び教師用手引書、
 2. *Millefeuille* シリーズ (2017, Nathan) CE1, CE2, CM1 及び教師用手引書 CE1, CM1, CM2、

3. *Mot de Passe* シリーズ (2017, Hachette) CE1, CE2, CM1, CM2 及び教師用手引書 CE1, CE2, CM1、
4. *Mots en herbe* シリーズ (2017, Bordas) CE1, CE2, CM1, CM2 及び教師用手引書 CE1, CE2, CM1、
- なお、*Mots en herbe* シリーズの2008年プログラム準拠教科書と今回参照の2016年プログラム準拠教科書を比べると、実質的内容はほぼ同じであるが、2016年準拠版CM2では「ギリシャ語とラテン語の語根」及び「外国語からの借用語」の学習項目が新たに加わっている。
- 22) 「語源」や「語根」は、第3学習期である第4学年または第5学年から習得し始める。
- 23) フランスの教育制度や国語教育に関する論考は多数あるが、国語教育と FLE を関係づけたものは、近江屋志穂 (2018) 「FLEにおける文学テキスト活用の可能性—フランス国語教育の視点から—」のみであろう。この論考は、フランス中等教育での文学テキスト分析を FLE におけるフランス文学テキストの読解に応用するという観点からのものである。
- 24) Éduscol とはフランス教育省が教育関係者に提供する情報やリソースの国家ポータルである。
- 25) <http://eduscol.education.fr/cid50486/vocabulaire.html> (2018.9.30 最終確認)
- 26) 他 Colé(2011:2) も指摘。
- 27) *Mots en herbe* CM2, p.239-240, *Mot de Passe* CM2, p.212.
- 28) 専攻語1年次に使用中の *Interactions1* でも同様の課題が見られる。
- 29) *Mots en herbe* CM2, p.236 ; *Millefeuille - Guide pédagogique* CM1, p.156.
- 30) NOR:MENE1526483A, *Bulletin officiel spécial No.11 du 26 novembre 2015*, Programme pour le cycle 2, p.23 及び pour le cycle 3, p.114.
- 31) 今回参照したアシェット社発行の *Mot de Passe* では新旧両方の綴り字が示されていたが、他社のものは新綴り字のみ示されていた。

参考文献

Alliance Française

- 2008 *Référentiel de programmes pour l'Alliance Française élaboré à partir du Cadre Européen Commun*, Clé international.

Auduc, Jean-Louis

- 2012 *Le système éducatif français*, Nathan.
- 2017 *Le système éducatif français aujourd'hui*, Hachette.

Colé, Pascale

- 2011 “Le vocabulaire et son enseignement – le développement du vocabulaire à l'école primaire : les apports de la dimension morphologique de la langue,” *eduscol.education.fr/vocabulaire*, MENJVA/DGESCO,

Conseil de l'Europe

- 2001 *Cadre européen commun de référence pour les langues : apprendre, enseigner, évaluer*, Unité des Politiques linguistiques, <http://www.coe.int/lang-CECR>

Conseil supérieur de la langue française

- 1990 “Les rectifications de l'orthographe”, *Journal officiel de la république française*, le 6 décembre 1990, Édition des documents administratifs.

Crinon, Jacques

- 2011 “Le vocabulaire et son enseignement – Lexique et compréhension des textes”, *eduscol.education.fr/vocabulaire*, MENJVA/DGESCO,

Dupriz, Dominique

- 2018 *La nouvelle orthographe en pratique*, De Boeck

Leroy, Michel

- 2012 *Les manuels scolaires : situation et perspectives*, Rapport n° 2012-036, Inspection générale de l'éducation nationale.

Ministère de l'Éducation nationale :

- NOR : MENE1506516D (*Bulletin officiel n° 17 du 23 avril 2015*)
NOR : MENE1526483A (*Bulletin officiel spécial n° 11 du 26 novembre 2015*)
NOR : MENE1526553A (*Bulletin officiel n° 44 du 26 novembre 2015*)
NOR : MENE1809041N (*Bulletin officiel spécial n° 3 du 26 avril 2018*)
NOR : MENE1820169A (*Bulletin officiel n° 30 du 26 juillet 2018*)

Picoche, Jacqueline

- 2011 “Le vocabulaire et son enseignement – Lexique et vocabulaire : quelques principes d'enseignement à l'école”, *eduscol.education.fr/vocabulaire*, MENJVA/DGESCO

文部科学省生涯学習政策局調査企画課編

- 2014 『諸外国の教育動向2013年版』 明石書店
2015 『諸外国の教育動向2014年版』 明石書店
2016 『諸外国の教育動向2015年版』 明石書店
2017 『諸外国の教育動向2016年版』 明石書店